

小田原の自然のあらまし

(1) 地形と自然

小田原の地形は大きく分けると、西側の山地、中央の低地、東側の丘陵の三つに分けることができます。

西側の山地は箱根外輪山の一部である明星ヶ岳（924m）、白銀山（993m）、聖岳（838m）の斜面です。ここは主にミカン畑やスギ・ヒノキの植林地として使われていますが、上部に自然林や草原が残っていて自然の観察ができる所があります。白銀山、聖岳の斜面は相模湾と断崖となつて接し、磯浜となつていて海の生き物のよい観察場所となっています。

中央の低地は丹沢山地や富士山の麓を水源として流れる酒匂川によって造られた足柄平野です。ここはほとんどが水田や住宅地として利用されていて自然の少ないところですが、空き地や休耕田などには野草が花開き、虫や鳥が生きていますし、人間との関わりの深い生き物が活動しています。足柄平野は砂浜となつて海に接しています。中央を流れる酒匂川の河原や河口は、豊かできれいな水に恵まれたよい自然の観察場所となっています。

東側の丘陵は国府津から曽我山に続く200m内外の小高い丘でできています。ここは主にミカン畑や梅林として利用されていますが、自然観察のできる場所もまだたくさん残っています。



(2) 気候と自然

箱根外輪山の一部を成す高さ700m以上の山地を除いた小田原地方の気候を一言で言えば、暖かく雨の多い気候と言えます。それは、小田原が中緯度^{ちゆういど}に位置していることと同時に、背後に山をひかえ、南に黒潮^{くろしお}の流れる相模の海^{さまのうみ}に臨んでいるからです。

年平均気温は16度前後で、12月から2月までの気温でも0度を下回ることは余りありません。また、太平洋岸気候に位置しているので、冬は晴れる日が多く雨は少ないのですが、それでも平均50ミリ以上の雨に恵まれていて、年間の総雨量は2000ミリを優^{ゆう}に越えています。

このような気候によって、小田原地方の平地や丘陵は暖帯性の草木^{くさばし}が茂り、それを基盤にしたたくさんの生き物が生息していただろうと考えられます。けれども現在は人間生活のために開発されてしまって、自然はほとんど残っていない状況です。しかし、寺社林^{てらじま}や祠^{ほこら}の周辺に自然林のおもかげが残っていますし、保存地区には貴重な自然の森が残されています。海岸には海浜植物が多く生育していますし、水田や畑・住宅地の空き地などでは、色々な生き物が生活しています。

700m以上の山地には植林地の合間に温帯林の一部が残り、落葉樹を中心とした豊かな自然があります。

小田原の気温と降水量 1981年(昭和56年)～2010年(平成22年)の平均値
(横浜地方気象台データより)

